

一般質問通告表

令和6年第3回始良市議会定例会（9月3日）

1. 和田 里志	1. 道路交通環境の整備と交通安全計画について	本市は、民間企業が実施している「街の住みこちランキング2024」で、5年連続1位となった。 大型商業施設や飲食店などが揃い、自然が豊かで公園等が多いエリアとして認識され、また空港や九州自動車道、JR日豊本線など、交通の利便性も良い街と高い評価を得、今なお人口が増え続けており、対外的には誇らしいことである。市は子育て支援や地域力向上に重点を置き、より暮らしやすいまちづくりに日々取り組み、これからも「県央の良さを活かした、県内一くらしやすいまち」をめざすとしている。 そこで、より身近な道路交通環境の整備や交通安全計画について以下を問う。 (1) 既存の幹線道路の整備状況と今後の計画について (2) 一般の市道及び狭隘道路（生活道路）の整備状況について (3) 排水対策の整備状況について (4) 側溝蓋・ロードミラー・標識等の整備状況について (5) 第3次始良市交通安全計画の進捗状況について	市 長 教育長
	2. 各種団体（校区コミュニティ協議会・自治会・PTA等）の現状とそのあり方及び行政の対応について	各地で各種団体の高齢化や役員のなり手不足、会員数の減少などにより、解散する団体も増えている。またその団体等が逆に地域の分断を招いてしまうケースもある。そこで以下を問う。 (1) 本市の現状をどのようにとらえ、どう認識しているか。 (2) 諸課題の解決に向け、行政としての取組、各種団体のあり方をどのように考えているか。	市 長 教育長

2. 国生 卓	1. 集中豪雨の防災対策について 2. 日本遺産に伴う歴史的観光資源について	本年5月末から6月末までの大雨により、各地域で土砂崩落が見受けられたが、幸いにも、大雨警戒情報は例年より少なく避難所開設が2回とのことであった。 しかし、始良市は、山地・急傾斜地・土石流危険渓流等の危険地域が約 830 か所あるため、日頃より防災対策を講じておくことが必要であると思う。 そこで、以下のとおり問う。 (1) 特別警戒区域への周知として、本市では、市民向けリーフレットとして「総合防災ハザードマップ」を市民に送付しているが、特に、豪雨、地すべり等の天災によるがけの崩壊に際し、避難することが困難な地域に居住する住民の生命に対する危険を未然に防止するため、「がけ地近接等危険住宅移転事業費補助金交付要綱」を制定しているが、これまでにこの制度を活用した補助金交付実績を問う。 (2) 近年多発する、豪雨の発生時において、特に、高齢者、障害者の方々が自力で避難所に移動することが困難な場合、避難支援の重要性が防災対策上喫緊の課題となっていると思うが、避難支援体制は整備されているのか問う。 (3) 気象災害に関しては、刻々と変化する気象状況への対応に遅れないよう、また、時間軸に沿って児童・生徒の不安払拭及び安全確保が求められるが、教育委員会は、学校における豪雨災害警報発生時の防災体制の整備に努めているのか問う。 鹿児島県では、県と9市を構成自治体とする「薩摩の武士が生きた町～武家屋敷群「麓」を歩く」が令和元年5月、始良市蒲生麓が日本遺産に認定された。	市 長 教育長 市 長 教育長
---------	--	---	---------------------------------------

		そもそも、「日本遺産」とは、有形、無形の文化財を組み合わせる観光振興に繋ぐことを目的に制定された制度である。 そこで、以下のとおり問う。 (1) 武家屋敷群「麓」を歩くに指定された蒲生麓は、9つの馬場通りと3つの小路からなる町割りで成り立ち、現在45門の武家門が残っている。 しかし、近年、傷んだ武家門の増加や滅失が進んでおり、「武家門のまち蒲生麓」の存在が失われつつある。 これら、武家門を観光資源としての活用について、どのような取組を考えているのか問う。 (2) 蒲生城跡は蒲生氏の居城で標高160mの竜ヶ山にあり、岩壁に日本最多といわれる1,700字の市指定文化財史跡の竜ヶ城磨崖梵字群があり、観光客が興味を抱いているとのことである。 しかし、崩落の危険性があると言われている梵字遺跡をどのように保存し、観光資源として観光施策に繋げていく考えがあるか問う。	
--	--	--	--